

PARNASSIUS

No. 42

目 次

私版 淡路の昆虫リスト (2)	藤 富 正 昭	(1)
兵庫県のサシガメ・マキバサシガメ (1)	高 橋 壽 郎	(5)
淡路島南部で注目される蛾 (1)	藤 平 明	(14)
クロコノマチョウについて	谷 川 大 海	(15)
イッシキガガンボモドキの♂を採集	登 日 邦 明	(17)

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI
HYOGO JAPAN

July 1995

112217

私版 淡路の昆虫リスト (2)

藤 富 正 昭¹

なお一覧表中の表示は下記のとおりである。

◇昆虫名 (和名)・採集場所・採集年月日

例 1) イボタガ 厚浜 750329

洲本市中川原町厚浜 (農試淡路分場内) 1975 年 3 月 29 日採集

例 2) イネヨトウ 八木 840523

三原郡三原町八木養宜中 (淡路農技センター内) 1984 年 5 月 23 日採集

◆採集場所の略称は下記のとおりである。

淡路町 : 岩屋, 田之代

東浦町 : 釜口, 飯屋, 久留麻, 楠本

北淡町 : 育波, 常隆寺

一宮町 : 尾崎, 萩

五色町 : 都志角川, 鮎原, 野畑

津名町 : 志筑, 中田, 大町, 佐野, 摩耶, 東山寺

三原町 : 八木養宜, 市, 論鶴羽

緑 町 : 広田, 倭文

南淡町 : 灘, 仁頃, 吹上, 阿万, 刈藻

洲本市 : 中川原町厚浜, 由良, 下加茂, 塩屋, 上内膳

淡路の昆虫 2 (半翅目)

ア

アオキノコナジラミ

厚浜

アオクサカメムシ

八木 840715, 900717

アオバハゴロモ

厚浜 730728, 八木 910731, 910921

アオモノカメムシ

八木 900901

アカスジカメムシ

尾崎 730603

アブラゼミ

摩耶 840808

イセリヤカイガラムシ

八木

イチモンジカメムシ

八木 840708, 900624

イナズマヨコバイ

八木 840613, 900726

ウズラカメムシ

八木 910514

エビイロカメムシ

厚浜 770531

オオキンカメムシ

厚浜 741028

オオクモヘリカメムシ

厚浜 780921, 740902

オオホシカメムシ

八木 920930, 930923

オオヨコバイ

厚浜 801210, 八木 890601

オビヒメヨコバイ

厚浜 750806

カ

カメノコロウカイガラムシ

カバイロトゲマダラアブラムシ

厚浜 730907

キイロサシガメ

八木 900922

キクヒメヒゲナガアブラムシ

八木

キョウチクトウアブラムシ

厚浜 730919

クサギカメムシ

八木 900611, 910605

クマゼミ

萩 840728

クモヘリカメムシ

八木 840813, 900719

クリオオアブラムシ

厚浜

クロカメムシ

八木 910523, 900802

クロサシガメ

八木 910413, 920908

クロモンサシガメ

八木 910809

クワハラウンカ

八木 840711, 900613

コツチカメムシ

八木 930817

サ

セジロウンカ

八木 840608

1: 〒675 兵庫県加古川市神野町西条 985

セジロウンカモドキ
 八木 890916
 シマウンカ
 八木 910817
 シラホシカメムシ
 八木 840625, 900622
 シロタカウンカ
 八木 900713
 シロヘリクチプトカメムシ
 八木 920811

タ
 タイワンヒゲナガアブラムシ
 八木
 タテスジウンカ
 厚浜 750814, 八木
 チャイロヨコバイ
 八木 891013
 チャバネアオカメムシ
 八木 840708, 900713
 ツクツクボウシ
 萩 840828
 ツチカメムシ
 八木 840722, 900714
 ツノロウカイガラムシ
 ツマグロスケバ
 八木 870915
 ツマグロヨコバイ
 八木 840512
 ツヤアオカメムシ
 八木 900801
 テングスケバ
 八木 870922
 トゲシラホシカメムシ
 佐野 740708
 トビイロウンカ
 八木 840618
 トビイロウンカモドキ
 八木 900708
 トビイロサシガメ
 八木 880814, 920706
 トビイロハゴロモ
 厚浜 770906, 八木 830801

ナ
 ナガメ
 八木 910413, 930423
 ナシミドリオオアブラムシ
 厚浜 730507
 ニイニイゼミ
 摩耶 840808
 ニセトビイロウンカ
 八木 900622
 ニホンウンカ
 八木 900624

ハ
 ハラヒロヘリカメムシ
 厚浜 740907
 ハルゼミ
 八木 920527, 厚浜 770525
 ヒグラシ
 摩耶 840808
 ヒメトビウンカ
 八木 840608
 ヒメフタテンヨコバイ

八木 840608
 ヒメホシカメムシ
 八木 880814, 900911, 930927
 フタテンカメムシ
 八木 830819, 900801, 930803
 ブチヒゲカメムシ
 八木 920704
 ベッコウハゴロモ
 厚浜 750815, 八木 840726, 900812
 ベニキシラミ
 八木 890525
 ホウズキカメムシ
 厚浜 760523, 八木 910626
 ホシハラヒロヘリカメムシ
 八木 910509
 ホソサシガメ
 八木 920730, 930528
 ホソナガカメムシ
 八木 900808
 ホソハリカメムシ
 八木 840715, 900429
 ホソヘリカメムシ
 八木 840818
 ホソミドリウンカ
 八木 910602, 930529

マ
 マキアブラムシ
 伊賀野 730603
 マツノホソアブラムシ
 厚浜
 マツヒヨウタンメクラガメ
 八木 930805
 マルカメムシ
 八木 840429, 900522
 ミカンコナジラミ
 厚浜
 ミカンクロアブラムシ
 八木
 ミナミアオカメムシ
 佐野 731002
 ミミズク
 八木 840726, 920716, 921010
 モモアカアブラムシ
 八木

ヤ
 ヤナギオオアブラムシ
 厚浜 730407
 ヤナギカワウンカ
 八木 930618
 ヤノネカイガラムシ
 ユキヤナギアブラムシ
 八木
 ヨコズナツチカメムシ
 八木 910525

ラ
 ルビーロウカイガラムシ

ワ
 ワタアブラムシ
 八木
 ワラビツメナシアブラムシ
 厚浜 730604

淡路の昆虫3 (鞘翅目)

ア

アオカミキリモドキ
八木 930528
アオスジカミキリ
厚浜 770611, 八木 850719
アオドウガネ
八木 840816, 860828
アカガネサルハムシ
内膳 0425
アカボシテントウ
厚浜 740317
アルファルファタコゾウムシ
内膳 880601
イネゾウムシ
志筑 750625
イネミズゾウムシ
楠本 850604
ウバタマムシ
厚浜 790223
ウリハムシ
八木 840522
エゾカタビロオサムシ
八木 830822
オオアトボシアオゴミムシ
八木 860805, 900824
オオキベリアオゴミムシ
八木 900824
オオニジゴミムシダマシ
三野畑 880623
オオマルスナゴミムシダマシ
吹上 840525
オオ「ウムシ
オオヒメゲンゴロウ
八木 920724
オオマドボタル
常陸寺 850709
オジロアシナガゾウムシ
内膳 920531

カ

キクスイカミキリ
厚浜 760503
キスジノミハムシ
厚浜 790822, 八木 830810
キマワリ
神代 730525
クロシテムシ
志筑 730604, 八木 910519
クロタマムシ
厚浜 770728
クロハナムグリ
磯 730521
クロホシタマケモゾウムシ
厚浜 800510
クワカミキリ
厚浜 780704
コアオハナムグリ
八木 840517
コイチャコガネ
八木 840624
コガネムシ
八木 840618

コガムシ
八木 860805
コシマゲンゴロウ
八木 860805, 920726
コフキコガネ
厚浜 730618, 志筑 740615
ゴマダラカミキリ
厚浜 740724, 論鶴羽 850728
ゲンジボタル
論鶴羽 740609

サ

サクラコガネ
八木 840701
サビキコリ
八木 930513
ジュウジゴミムシ
厚浜 790426
シラオビマルカツオブシムシ
八木 840506
シロコブゾウムシ
由良 730513
シロスジカミキリ
厚浜 740625, 770627
シロスジコガネ
下加茂 920619
シロテンハナムグリ
八木 840722
スグリゾウムシ
飯屋 740625
スジコガネ
八木 840617
セマダラコガネ
八木 840618

タ

タカサゴシロカミキリ
厚浜 810706
タマムシ
広田 850905
ドウガネブイブイ
八木 840523
ツツミキクイムシ
八木 930821
ツバキシギゾウムシ
東山寺 900525
ツマグロツツカッコウムシ
八木 920822
テントウムシ
厚浜 740319

ナ

ナガヒヨウホンムシ
阿万 9305? (スズメバチの巣より)
ナナホシテントウ
厚浜 730610
ニジュウヤホシテントウ
厚浜 730417, 角川 850624
ニジゴミムシダマシ
志筑 760628

ハ

ヒゲコメツキ
厚浜 760518, 八木 820519
ヒメアカボシテントウ

厚浜 730411
 ヒメカメノコテントウ
 厚浜 730705
 ヒメハンミョウ
 八木 820616
 ヒメヒラタゲシキスイ
 厚浜 770506
 ヒメマルカツオブシムシ
 八木 840506
 ヒョウタンゴミムシ
 仁頃 850728
 フタスジヒメハムシ
 八木 840715
 ヘイケボタル
 八木 839702
 ベタリヤテントウ
 ベニカミキリ
 八木 840530
 ベニヘリテントウ
 厚浜 740319
 ホソクビキマワリ
 三野畑 880525
 マ
 マイマイカブリ
 岩屋 910509, 厚浜 800514

マダラアシゾウムシ
 厚浜 750513
 マツキボシゾウムシ
 厚浜 780529
 マツノマダラカミキリ
 厚浜 780612
 ミカンナガタマムシ
 ミヤマカミキリ
 八木 930728
 モモチヨッキリゾウムシ
 久留麻 750527, 八木 920625
 ヤ
 ヤサイゾウムシ
 志筑 750521, 北阿万 791114
 ヤツボシハナカミキリ
 厚浜 770531
 ヤハズカミキリ
 佐野 740625, 厚浜 730528
 ヤホシゴミムシ
 厚浜 780424, 780502
 ラ
 ラミーカミキリ
 釜口 920615

淡路の昆虫4 (その他)

総尾目
 ヤマトシミ
 八木 871020
 結管目
 ムラサキトビムシ
 直翅目
 アオマツムシ
 志筑 740908, 厚浜 740923, 八木 850916
 カヤキリ
 八木 880821
 カンタン
 八木 850822
 クロゴキブリ
 八木 920224
 テニ
 志筑 760919
 ハネナガイナゴ
 刈穂 880902, 育波 880825
 ヒメカマキリ
 八木 850723, 920729
 総翅目
 クロトンアザミウマ
 東山寺 92--
 ネギアザミウマ
 チャノキイロアザミウマ
 ミナミキイロアザミウマ
 種
 カキクダアザミウマ
 中川原, 八木
 脈翅目
 オオウスバカゲロウ
 厚浜 750907
 ツノトンボ

八木 920720, 900707, 志筑 760813
 ヒメウスバカゲロウ
 八木 840804, 880903
 ヘビトンボ
 厚浜 780515, 800829
 膜翅目
 オオセイボウ
 厚浜 780909
 オオホシオナガバチ
 塩屋 930613
 オオモンクロベッコウ
 厚浜 730627
 スズバチ
 八木 890815
 スズメバチ
 厚浜 731012
 セグロアシナガバチ
 厚浜 731027
 ヤマトアシナガバチ
 厚浜 731027
 ルリシガバチ
 厚浜 740709
 双翅目
 アメリカミズアブ
 八木 830825
 ウシアブ
 八木 840907
 カボチャミバエ
 岩屋 881128
 キリウシガガンボ
 八木 820429
 コウカアブ
 八木 841001

シマハナアブ
厚浜 740410
スネブトクシヒゲガガンボ
内膳 850804
タイワンシロフアブ
八木 830830
タネバエ
市 830128
ツワブキケブカミバエ
厚浜 750406
フトハチモドキバエ

八木 930629
ベッコウガガンボ
八木 880831, 920603
マダラガガンボ
厚浜 780515
ミスシミバエ
中田 840421
ミツマタハマダラミバエ
大町 870422

(ふじとみ まさあき)

兵庫県のサシガメ・マキバサシガメ (1)

高橋 壽郎²

まえがき

サシガメ (*Reduviidae*) は捕食性の比較的大型種をふくむグループで丈夫な口吻をもって刺されるとビックリする程痛い。昆虫や動物の体液を吸うので害虫の天敵として知られているものである。一方マキバサシガメ (*Nabidae*) は細長い体をして口吻が4節、ふ節が3節あり、半翅類は退化して無翅型になることがあるが膜翅部が退化した短翅型も多い。こちらも害虫の天敵として知られている。

日本に産するサシガメは日本産昆虫総目録 (1989) によると9亜科 35 属 53 種でその内本州に分布とあるのが 37 種となっている。マキバサシガメの方は2亜科 13 属 21 種 (内本州分布は 13 種)。

兵庫県下にサシガメ、マキバサシガメがどの位いるのか良く知られたサシガメがいたり美しいのがいたりするのだが一般的にはサシガメ、マキバサシガメを調べる人がほとんどなくてよくその分布状況がわかっていないのが現状だと考えられる。一応兵庫県産サシガメは現在 30 種マキバサシガメ 9 種がわかっているのでそれらの分布を中心に兵庫県産サシガメ・マキバサシガメを紹介してみたい。長くなるので分割発表させて頂く。

研究史

1883. Distant, W. L. First Report on the Rhynchota collected in Japan by Mr. George Lewis. Trans. ent. Soc. London. 1883:413-443

この報文は G. Lewis の採集品に基づいて研究されたものである。産地の記録もはっきりと示されている。図版もついている。兵庫県の異翅半翅類について Scott の論文 (1874, 1880) は同じく G. Lewis の採集品によるから兵庫、神戸産のものが当然あると考えられるが全く産地についての記述のない論文だけにこの Distant の論文が産地があり県産カメムシの一番古い文献として重要なものである。113 種が記録

2: 〒652 神戸市兵庫区米室町 1 丁目 44

されており 3 新属 33 新種の記載がふくまれている。兵庫或いは神戸と産地のついでいる種は 14 種でその内に 1 新種記載がありこれがサシガメであるから県下のサシガメの初めての記載種とゆうことになる（図もついている）。その種は次のとおりである。p.442. pl. XV. f.9. *Labidocoris insignis* Distant クロバアカサシガメで Kobe 産である。

1908. 井口宗平 兵庫県佐用郡産昆虫目録（承前）。昆虫世界 12(132):335-337(ref. p.336-337)。

佐用郡下で採集された昆虫の種が 2000 種に達したとして膜，鱗，双，甲の 4 目を除く他のものを紹介すると発表の始まったのが明治 41 年 3 月号（1906）の昆虫世界誌上においてである。（Vol.12, No.127:116-118）。異翅半翅目について 8, 9 月号（Vol.12, No.132, 133）に発表されている。和名と学名のみが目録形式のもので若干の解説のついたものもあるが学名など現在の知見からすればかなり変わっている。また標本が現存しないので標本を見なければ同定に納得を得られないものが数多くふくまれている。日本人によりこのような早い時期にこの仲間のファウナがまとめ発表されたことは注目しなくてはならない。

サシガメ類は p.336-337. No.83-100 までの 18 種が記録発表されている。もちろん産地などの詳しいデータなどもないが一応佐用郡産として考えておく。18 種の内学名は変わってもどの種であるかわかるものが 14 種（内 1 種はサシガメ科でなくマキバサシガメ科，キバネアシブトサシガメである）（この中でオオサシガメ *Alcumena rapax* としてあるのはオオトビサシガメ *Isyndus obscurus* (Dallas, 1850) のことではないかと思う）。全くわからないものが 4 種ある。その内イグチサシガメ *Onococephalus Iguchi* については問題がある。井口氏の次の論文のところで詳しく述べることにする。

1908. 井口宗平 有吻目の四新種に就いて。昆虫世界 12(136):504-507。

表題のごとく松村松年博士に送られたる有吻目の中に 4 種の新種がありいずれも Iguchi なる種名を採用されたとしてこれらをこの報文で紹介している。いずれも今迄の佐用郡産目録中に編入して掲載されしも”原稿に削除を加えられしがためそれらが新種なるや否や判明しがたき次第にて”と冒頭に記されている。今回紹介されているイグチサシガメ（命名者名間違っている）も前報文で学名を *Onococephalus Iguchi* として収録されているが本種の原記載は 1913 年の松村松年博士の新日本千虫図解第一になるので収録するのであれば *Onococephalus* sp. としておかなくてはいけない。今回この種については記載文がついている。これではこの報文が原記載になってしまうこのあたりもう少々注意して貰わねば困る。いかに松村博士から学名を教えて貰っているからとて原記載が発表されていない前にこのような記載発表は困る。当然掲載紙にも責任がある。もっともこのイグチサシガメの正体が現在ではわからないサシガメの一つでタイプ標本を検しなくてはならない種である。編集付記として今回の 4 種の内標本を送られたるイグチヒラタカメムシはノコギリヒラタカメムシであり、イグチヒシウンカはクロヒラタヒシウンカと同一種であるとされ、イグチサシガメは標本を送って来いていないと記されてある。

1909. 井口宗平 兵庫県佐用郡産半翅類目録, 追加. 昆虫世界 13(141):205-207.

昆虫世界 No.131-133 に発表した佐用郡産半翅類目録に新たに松村松年博士により 1 新属, 7 新種を検出されたとして追加目録 29 種を上記表題にて発表された. その内 5 種サシガメがある次にそれらを掲げておく.

19. コバネマキバサシガメ (新種) *Reduviolus (Nabis) apicalis* Mats. = *Nabis (Milu) apicalis* (Matsumura, 1913) (マキバサシガメ科)

20. ハナダカサシガメ (新属・新種) *Diaspidioides iguchii* Mats.

21. ハネナシサシガメ *Anitus dilatus* Mats. = *Coranus dilatatus* (Matsumura, 1913)

22. ヒゲナガサシガメ *Endochus atolianus* Horv. = *Endochus stalianus* Horváth, 1879

23. イグチベニサシガメ *Haematoloecha iguchii* Mats.

上記の内ハナダカサシガメとイグチベニサシガメがよくわからない種である. 松村博士が何処に記載されたのか知らない. 福井玉夫の報文 (1926, 1927) にも日本産昆虫総目録 I (1989) にも該当する種が見あたらない. 記載されているのであればタイプ標本を調べる必要がある. 他の種は学名は変わるがわかる種である (1 種マキバサシガメ科をふくむ). 前にものべたように新種記載がされていない状況で学名を表示して記録を発表するということはいくはない.

1913. 松村松年 新日本千虫図解. 第一巻 (警醒社).

井口宗平氏が 1908 年に *Oncocephalus iguchii* Matsumura イグチサシガメを紹介されたが本書 p. 166, t. 15, f. 9 に *Ectrychotes iguchii* Matsumura なる学名で図説されておりこれがこの種の原記載になるのであるがタイプ標本を調べないといどのようなサシガメなのかよくわからない種である.

1926. 福井玉夫 内地産食虫椿象科図説 (一). 昆虫 1(1):7-8, pls. 1, 2.

アシナガサシガメ (*Schidium marcidum* (Uhler)) の播磨からの記録がある. 最もこれは松村博士 (1913) からの引用である.

1926. 福井玉夫 内地産食虫椿象科図説 (二). 昆虫 2(1):1-6, pls. 1, 2.

p. 13 イグチアカサシガメ *Ectrychotes iguchii* Matsumura の記載あり. 播州産 井口宗平氏採集とある (これも松村博士, 1913 からの引用である).

1938. 谷口和義 クロトビサシガメの分布に就いて. 博物研究 (III):14-15.

神戸市本山, 六甲山麓, 摩耶山麓, 箕谷, 伊丹軍行橋付近の産をまとめる.

本種はクロトビイロサシガメ *Oncocephalus breviscutum* Reuter, 1882 のこと.

1942. 高橋壽郎 神戸高取山産の異翅目. 昆虫界 10(97):171-176.

11 科 61 種を記録 (内サシガメ科 8 種, マキバサシガメ科 3 種). 若干同定間違いもあり, 学名も変わるものがある.

1951. 黒佐和義 クロサシガメの生態特に周年経過. 新昆虫 4(10):34-35.

京阪神地方に産すとあり具体的産地は示されていない. 生態として京阪神地方では年一回発生で成虫態で越冬し産卵は春季に行われ, これより孵化した幼虫は 8 月に成虫になるものと推定されると.

1954. 山本義丸 兵庫県丹波地方の異翅類目録. 兵庫生物 2(4/5):216-218.

- 氷上郡と一部多紀郡において採集された異翅半翅類の目録で 29 科 147 種が記録されている。個々の種についての採集データはほとんどなく若干の注目種についての解説がついている。サシガメ科は 15 種 (No.102-116), マキバサシガメ科 3 種 (No.117-119) が記録されている。
1958. 山本義丸 兵庫県氷上郡昆虫目録。Natura 特別号, 氷上の自然 第3集, p.113-119. 氷上郡下のみのものであるが異翅亜目 28 科 153 種記録されている (p.113-119)。残念ながら詳しいデータはほとんど無く若干の注目種に注がついている。珍しい種の記録がわりとある。
1963. 黒佐和義 セスジアシナガサシガメについて。Rostria (6):25-26.
氷ノ山での記録及び尼崎での観察記録あり。
1964. 黒田礼文 扇ノ山のカメムシ類。兵庫県農科大学生物研究部々誌 (4):25-26.
扇ノ山産 11 種のカメムシの記録 (前年辻氏の記録した 5 種を加えて 16 種の目録になっている)。但しサシガメはトビイロサシガメ 1 種のみ記録である。
1965. 高橋 匡 出石郡昆虫目録 第2報。VITA (2):1-16.
出石郡産異翅半翅類 10 科 45 種の記録がある (全部採集データがついている)。サシガメ科は 8 種, マキバサシガメ科 1 種がふくまれている。
1968. 田中篤夫・殿界和男 ヨコツナサシガメの新産地。昆虫と自然 3(10):35.
神戸市道場からの記録。兵庫県下からの本種の記録として文献に現れた初めての記録になると考える。
1969. 佐々木基之 甲陵中学附近のカメムシ類。甲陵生物 (4):14-15.
西宮市甲陵中学校付近のカメムシ類 7 科, 34 種が記録されているが和名だけで学名無し。サシガメは 5 種記録されている。
1971. 井上智雄 本州にいたヨコツナサシガメ。昆虫と自然 6(1):28.
西宮市名塩 (alt. 100m), 木ノ元 (alt. 100m) での記録。
1971. 日浦 勇 ヨコツナサシガメの分布。Rostria (21):56-97.
兵庫県下での記録もふくまれている。
1972. 桂 孝次郎 近畿地方北西部のヨコツナサシガメの記録。Nature Study 19(8):90.
兵庫県下での記録もある。
1973. 宮武睦夫・友国雅章 本四架橋ルートの島々の昆虫相。本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書, pp.64-68 (国立公園協会刊)。
カメムシ類は 18 科 47 種が記録されている。全部淡路島からの記録 (兵庫県関係の記録として)。サシガメ科はマダラカモドキサシガメ, シマサシガメの 2 種のみ。
1973. 宮武睦夫・友国雅章 本四架橋ルートの島々の昆虫相 (その II)。本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 (その 2), pp.79-80 (国立公園協会刊)。
カメムシ類は 8 科 20 種が記録されておりいずれも淡路島からの記録 (兵庫県関係の記録として)。サシガメ科はトビイロサシガメ (*Oncocephalus* sp.) 1 種のみ。
1974. 高橋壽郎 兵庫県の異翅亜目 (I)。きべりはむし 2(2):1-7.
県関係の異翅亜目に関する文献をまとめた。

1974. 神戸女学院 岡田山の自然. 神戸女学院百周年記念「岡田山の自然」出版委員会刊.
六甲山系の東端、甲山の東に位置する岡田山（西宮市岡田山）の生物目録の中に
カメムシ科 17 種が記録されている（内サシガメ科 2 種、マキバサシガメ科 1 種
あり）.
1974. 川澤哲夫 淡路島の水田および雑草地に発生するカメムシ類. げんせい (27):11-14.
9 科 24 種のカメムシが生態と共に記録されている. その中でハネナガマキバサシガ
メ 1 種が記録されている（北淡町富島, 洲本市生石）
1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 1・2 報）. 兵庫県立豊岡高等学校生物
教室刊.
但馬地方で採集され保管されている標本目録で第 1 報でカメムシ類 16 科 67 種, 第
2 報で 6 科 11 種記録されている. サシガメ科は 6+1 種, マキバサシガメ科 1 種が
ふくまれている. 全部採集データがついている.
1975. 堀田 久 淡路島のカメムシ類について. Parnassius (14):4-6.
7 科 21 種記録されており, サシガメ科は 3 種記録されている.
1975. 高橋壽郎 兵庫県の異翅亜目 (3). きべりはむし 4(1/2):1-7.
サンガメ科 23 種, マキバサシガメ科 7 種を記録報告した.
1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 3 報）. 兵庫県立豊岡高等学校生物教
室刊.
異翅半翅目 10 科 19 種記録されており内サシガメ科は 2 種記録されている.
1976. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 4 報）. 兵庫県立豊岡高等学校生物教
室刊.
カメムシ科は 8 科 15 種の記録がある. サシガメ科 *Polytorus* sp. ユミアシナガカ
メムシの一種は省いたとある（立川周二氏同定）.
1977. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸 三熊山の昆虫について. Parnassius (17):9-11.
カメムシ類は 15 科 25 種記録されている. サシガメ科は 2 種ふくまれている.
1977. 日浦 勇 原色日本昆虫図鑑, 下巻. (全改訂新版, 保育社・大阪).
兵庫県産サシガメ 3 種がカラーで図説されている.
pl.31. f.442. p.118. シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis* Stål 1963 年
8 月 神崎郡栃原谷.
pl.31. f.444. p.118. ヨコヅナサシガメ *Agriosphodorus dohrni* Signoret 1964
年 4 月 川西市笹部.
pl.31. f.445. p.118. モモブトトビイロサシガメ *Oncocephalus femoratus*
Reuter 1961 年 4 月 神戸市垂水.
1978. 堀田 久 淡路島のカメムシ類 (II). Parnassius (19):1-3.
主として洲本市内産カメムシ 9 科 24 種の記録. サシガメ科は 2 種ふくまれている.
1978. 高橋壽郎 神戸市内におけるハリサシガメの産地. きべりはむし 6(1/2):24.
1978. 仲田元亮 能勢の昆虫 I. B5, 405p. (自刊・単行本).
17 科 96 種の半翅目が記録されており各種についての詳しいデータがついている.
サシガメ科は 11 種が記録されている.

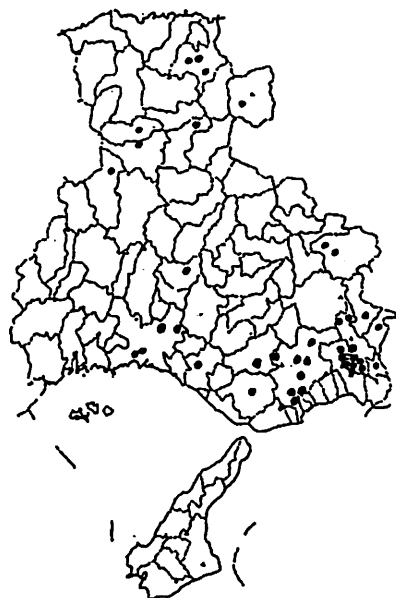
1979. 小林桂助 県下の採集例。きべりはむし 7(2):30.
 ヨコヅナサシガメの養父郡養父町，多紀郡西紀町の記録がある。
1980. 環境庁 日本の重要な昆虫類 近畿版。B5. 624p.
 指定昆虫ヨコヅナサシガメの兵庫県下の産出状況の解説あり (p.59)。
1980. 奥谷禎一 宝塚市の昆虫類。宝塚市史 Vol. 7:512-523.
 ヨコヅナサシガメの解説あり。
1980. 高橋壽郎 兵庫県下におけるヨコヅナサシガメの分布。きべりはむし 9(1):18-20.
1981. 相坂耕作 宍粟郡波賀町引原でヨコヅナサシガメ発見。姫昆サロン ニュース (19):2.
1982. 宮本正一 日本の自然環境と昆虫，タガメおよびその他の異翅半翅類。遺伝 36(7):18-22.
 ヨコヅナサシガメの兵庫県下の分布状況説明あり。
1983. 高橋壽郎 ヨコヅナサシガメ，兵庫県大百科事典。下巻 (p.1252) (神戸新聞出版センター)。
1984. 河上仁之 伊丹市昆虫目録 (1)。伊丹の自然 (1):22-32.
 カメムシ類は 15 科 37 種記録あり。サシガメ科は 4 種ヨコヅナサシガメの記録もある。全般に詳しいデータはほとんどの種についていない。
1985. 河上仁之 伊丹市昆虫目録 (2)。伊丹の自然 (2):27-32.
 カメムシ科 5 種の記録があり内サシガメ科 2 種記録されている。
1985. 新家 勝 ヨコヅナサシガメ，ヨツボシケシキスイを捕食す。きべりはむし 13(2):44.
 川西市芋生にて。
1985. 森田眞澄 ヨコヅナサシガメ兵庫県南部の記録。きべりはむし 14(1):20-21.
 神戸市北区淡河町論破山，三木市伽耶院，加古川市八幡神社，姫路市仁豊町，姫路市広畑区大町，広畑区鶴町。
1986. 加藤信一郎 宝塚市内におけるヨコヅナサシガメの採集記録。きべりはむし 14(2):34.
1986. 新家 勝 宝塚市内におけるサシガメ 2 種の採集記録。きべりはむし 14(2):34.
 ヨコヅナサシガメ，アカマキバサシガメの記録。
1990. 山川 昇 ヨコヅナサシガメ。日本の生物 4(7):72.
 明石市大久保町 1990 年 4 月 28 日羽化直後の幼虫。
1991. 高橋壽郎 ヒゲナガサシガメ，ベニモンマキバサシガメ共に氷上郡山南町に産す。きべりはむし 19(1):26-27.
1991. 大野正男 日本の帰化昆虫 (2)，ヨコヅナサシガメ。自然史研究雑誌 (1):19-32.
 兵庫県下の分布について詳しく解説されている。
1992. 東 正雄 カメムシ目。宝塚の昆虫 I:58-147, B5. (宝塚教育委員会刊)。
 カメムシ類は 25 科 No.131-252, 122 種各種白黒写真をつけ詳しい産地とか生態，形態などを記されている。サシガメ科は 15 種，マキバサシガメ科は 1 種，これらは新家 勝氏の解説も入っている。
1994. 新家 勝 宝塚のカメムシ目 (補遺)。宝塚の昆虫 VII:297-302, 376.

宝塚のカメムシ目補遺として6科8種が記録されている。サシガメ科、マキバサシガメ科は各1種ずつ追加解説されている。

Family Reduviidae サシガメ科
Subfamily Harpactorinae サシガメ亜科

1 *Agriosphodorus dohrni* (Signoret, 1862) ヨコヅナサシガメ

帰化昆虫として良く知られているサシガメであり大きくもありません。なかなか美しい。兵庫県下の分布については筆者も一度まとめ発表したことがある(1981)。大野正男教授は全国的視野にたつての報文を発表されている(1991)。兵庫県下での分布は(分布概要図参照)神戸並びにそれから東にかけての地域には広く分布しており、播磨地域も分布がわかっているが西播磨からの記録が見られない。県の中央部にはほとんど記録が見られず但馬地方に僅かに分布記録がある。このあたりの分布状況が良くわからない。それと淡路島の記録がない。四国での記録はあるのであるから分布しているのではないかと考えたりしている。



兵庫県におけるヨコヅナサシガメの記録地点

産地：川辺郡猪名川町槻並(10exs., 4・V・1979, 第5令幼虫)。川西市笹部〔日浦, 1971, 1977, 仲田, 1978〕。伊丹市昆陽池西台〔河上, 1984〕。宝塚市千刈, 大原野中部〔桂, 1973〕, 清荒神(1♀, 22・V・1975)〔加藤, 1986〕, 山本1丁目, 南口2丁目, 宝塚大橋〔新家, 1986〕, 山本, 宝梅1丁目~寿楽荘, 野上町, 宝塚大橋, 烏ヶ脇, 波豆, 武田尾溪谷〔東, 1992〕。西宮市名塩, 木ノ元〔井上, 1971〕。神戸市再度山(1♀, 10・VI・1978), 道場〔田中, 殿界, 1968〕, 下谷上(1ex., 7・XI・1979, etc.), 北区淡河町論破山〔森田, 1986〕, 八多町屏風(2exs., 4・VI・1993, etc.), 須磨区多井畑(1ex., 23・V・1990)。三木市伽耶院〔森田, 1986〕。三田市〔鈴木, 1994〕。加古川市八幡町八幡神社〔森田, 1986〕。姫路市南山田藤の木山〔相坂, 1981〕, 仁豊野, 広畑区大町, 鶴町〔森田, 1986〕, 増位山々麓〔大野, 1991〕。神崎郡神崎町猪篠〔桂, 1973〕。宍粟郡波賀町引原〔相坂, 1981〕。多紀郡篠山〔奥谷, 1971〕, 西紀町〔小林, 1979〕。豊岡市滝, 森〔桂, 1973〕, 九日市〔高橋, 1975〕。出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕。養父郡養父町藪〔桂, 1973〕, 養父町〔小林, 1979〕, 関宮町関宮, 杉ヶ沢付近〔相坂, 1981〕。

2 *Coranus dilalatus* (Matsumura, 1913) ハネナシサシガメ

山地の植物の根ぎわで生活し, 小さな昆虫を捕食するとある。分布も北海道, 本州, 極東ロシア, 朝鮮半島, 中国と広い。ただ残念なことには兵庫県下では佐用郡の記録以外全く記録がない。筆者も県下では未採集である。

¹⁾産地の記録は〔〕で示したものは記録からの引用。()は筆者の採集品で多数採集の場合1例のみ示しetc.を入れて他を省略。標本は県立人と自然の博物館に保管。

これは調査の不全に原因すると考えられる。

産地：佐用郡〔井口，1909〕。

3. *Cydnocoris russatus* Stål. 1866 アカサシガメ

朱赤色で草むらに普通に見られるサシガメ。鱗翅類の幼虫やハムシなどの小さい昆虫を捕食する。

産地：川西市横地，笹部〔仲田，1978〕。宝塚市満願寺～花屋敷，切畑，香合新田〔東，1992〕。西宮市船坂 (lex.. 11・IX・1987)。神戸市六甲山 (lex.. 15・VII・1956)，烏原 (lex.. 17・V・1963. etc.)，藍那 (lex.. 28・VI・1993. etc.)，高取山〔高橋，1942〕，山の街 (lex.. 29・IV・1959. etc.)，丹生山 (lex.. 3・V・1958)，太山寺 (lex.. 6・V・1957)，下谷上 (lex.. 29・VIII・1979)，伊川谷 (lex.. 7・VI・1988)，八多町屏風 (lex.. 15・IV・1993)。三木市口吉川町原 (lex.. 26・IX・1986)。小野市山田町 (lex.. 16・V・1987. etc.)。加東郡東条町 (lex.. 29・IV・1984. etc.)，社町三草 (lex.. 22・V・1989)。加西市法華山一乗寺 (lex.. 23・V・1965)。多可郡市原 (3exs.. 24・IX・1972)，白山 (lex.. 27・V・1973)，三谷 (lex.. 4・IX・1976)。龍野市神岡 (lex.. 4・VI・1988. etc.)。佐用郡〔井口，1908〕。相生市三濃山 (lex.. 1・VI・1974)。多紀郡西紀町 (lex.. 20・IV・1982)。水上郡〔山本，1954. 1958〕。出石郡出石町〔高橋，1965〕。宍粟郡水谷 (lex.. 17・VII・1981)，赤西 (lex.. 21・V・1979)，音水 (lex.. 16・VII・1972)。

4. *Endochus stalianus* Horváth. 1879 ヒゲナガサシガメ

山地の樹上で生活しているがあまり多くなく，灯火にも飛来するとある〔友国他〕。兵庫県下の記録も大変少ない。

産地：宝塚市西谷西部〔東，1992〕。水上郡〔山本，1954. 1958〕，山南町 (lex.. 5・VII・1990)。佐用郡〔井口，1909〕。

5. *Isyndus obscurus* (Dallas. 1850) オオトビサシガメ

山地の樹上によく見かける，10月頃道路の側溝などに多くいることがある。成虫は樹皮の下や樹の空洞に群がって越冬する。刺されると激しい痛みがある。

県下にも広く分布していると考えられる。

産地：宝塚市烏ヶ淵，西谷，大原野，西部，宝梅町，寿楽荘〔東，1952〕。神戸市高取山〔高橋，1942〕，神戸大橋上 (1♂，8・XI・1984)，山の街 (lex.. 17・V・1953)，藍那 (6exs.. 31・X・1978. 3exs.. 10・XI・1978)，八多町屏風 (lex.. 12・V・1993. lex.. 4・VI・1993)。佐用郡〔井口，1908〕。多可郡笠形山 (lex.. 6・XI・1976)。水上郡〔山本，1954. 1958〕。豊岡市〔高橋，1975〕。城崎郡城崎町 (9exs.. 25・X・1978)。

6. *Pohodius armatissimus* Stål. 1859 トゲサシガメ

和名のとおり体や脚に多数の棘をもつサシガメである。兵庫県下での記録がほとんど知られていない。もつといると考えるのだが。

産地：宝塚市南口2丁目〔新家，1986，東，1992〕。出石郡但東町中野〔高橋，1965〕。

7. *Rhynocoris ornatus* (Uhler. 1896) アカヘリサシガメ

黒色，前胸背後葉の後，側縁と腹部の外縁が赤いことでよくわかる種である。山地の植物上で発見され鱗翅類の幼虫やハバチなどの小さな昆虫を捕食する。

県下でもわりと記録が知られていない種である。

産地：佐用郡〔井口，1908〕。多可郡三谷 (lex.. 8・VIII・1975)。水上郡〔山本，1954〕。高源寺 (lex.. 16・VI・1994)。養父郡水ノ山 (lex.. 22・VII・1958)。

8. *Sphedanolestes impressicollis* (Stål. 1861) シマサシガメ

黒色の地に黄白色の斑紋がある。樹上や草むらに多い。ルリハムシ、ヨモギハムシ、アオバネサルハムシ、ヒゲナガマルノミハムシ、アザミカミナリハムシ、ナナホシテントウなどの甲虫類や鱗翅類などの小さい昆虫を捕食する。県下に広く分布している。

産地：洲本市先山〔友国，1973，堀田，1978，前川，1989〕，三熊山〔堀田，1975〕。宝塚市光明町，池田〔東，1992〕。西宮市船坂（2exs.. 5・VI・1987. etc.）。神戸市高取山（高橋，1942），山の街（lex.. 29・V・1976），五社（lex.. 22・V・1980. etc.），藍那（lex.. 27・VI・1978. etc.），烏原（2exs.. 2・VI・1974. etc.），芦谷溪谷（lex.. 11・VI・1982），多井畑（lex.. 19・VI・1990. etc.）八多町屏風（2exs.. 4・VII・1989. etc.）。三木市細川中（lex.. 30・V・1985）。美濃郡吉川（lex.. 6・VI・1985），吉川町奥山（2exs.. 10・V・1986）。小野市山田（lex.. 23・VI・1987），来住町（lex.. 30・V・1991）。加東郡社町三草（lex.. 14・VII・1989）。飾磨郡雪彦山（lex.. 14・VII・1957）。多可郡三谷（2exs.. 19・IV・1975. etc.），烏羽（lex.. 5・VII・1975）。神崎郡板原谷〔日浦，1977〕，大河内町川上（2exs.. 18・VI・1977）。龍野市神岡（lex.. 20・V・1988. etc.）。揖保郡新宮町福原（lex.. 10・VI・1992. etc.）。佐用郡〔井口，1908〕。相生市三瀬山（lex.. 6・VII・1973. etc.）。宍粟郡水谷（lex.. 17・VII・1981），音水（lex.. 13・VII・1958. etc.），赤西（2exs.. 3・VI・1979）。水上郡〔山本，1954，1958〕，山南町（lex.. 11・VII・1980）。美方郡黒ノ山〔高橋，1975〕。

9. *Vehmus nodipus* (Uhler, 1860) ヤニサシガメ

体は黒く全体が樹脂状の粘着物でおおわれていることが多い。マツの樹で生活し，小さい昆虫を捕食する。終令幼虫は樹皮の間に群生して越冬し，5-6月に新成虫が出現する。

兵庫県下に広く分布し普通に見られるサシガメである。

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田，1978〕。川西市南口2丁目〔新家，1986〕。宝塚北部西谷，切畑，宝塚大橋上，宝梅1丁目，西谷西畑西部，大峰山〔東，1992〕。西宮市船坂（2exs.. 28・V・1987. etc.）。神戸市六甲山（2exs.. 16・VII・1962），烏原（lex.. 5・V・1968. etc.），石井ダム（lex.. 18・X・1991），山の街（lex.. 6・V・1962），谷上（2exs.. 29・IV・1958），藍那（lex.. 14・VI・1978. etc.），高取山（高橋，1942），垂水（lex.. 10・V・1985），逢山峽（lex.. 27・VI・1987），伊川谷（3exs.. 13・V・1988），多井畑（lex.. 23・V・1990），八多町屏風（3exs.. 6・V・1993. etc.）。小野市来住町（lex.. 5・V・1991）。加東郡社町三草（lex.. 17・V・1987. etc.）。飾磨郡雪彦山（lex.. 14・VII・1957），家島（lex.. 26・V・1978）。多可郡白山（lex.. 3・V・1973），三谷（2exs.. 19・IV・1975. etc.），烏羽（lex.. 1・VI・1975. etc.）。相生市三瀬山（2exs.. 7・V・1973. etc.）。揖保郡鷺亀山（2exs.. 27・V・1970），新宮町福原（lex.. 15・V・1992. etc.）。佐用郡〔井口，1908〕，大撫山（lex.. 15・III・1975）。宍粟郡音水（lex.. 10・V・1970. etc.）。水上郡〔山本，1954.1958〕。豊岡市杉ヶ沢〔高橋，1975〕。

（たかはし としお）

淡路島南部で注目される蛾 (I)

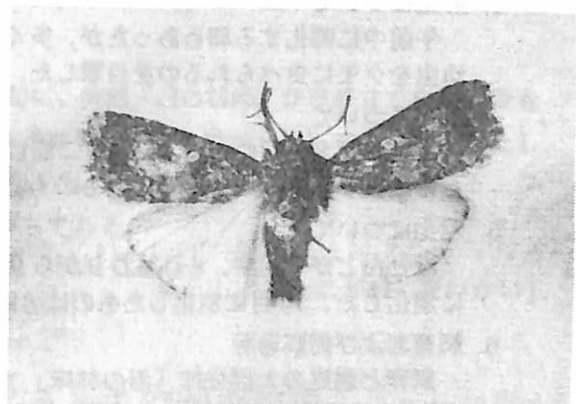
藤 平 明³

1. マスイカバナミシャク *Eupithecia masui* Inoue
Nov.19.1990 lex Oct.29.1991 lex (Ama) [灯]
香川県の石清尾山と象頭山、鳥取市で 10 月中旬から 11 月上旬に採集されるほか、
産地はわかっていないとされている。
2. マイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura
Mar.25.1985 lex Mar.26.1985 lex (Ama) [灯]
北海道中南部、東北地方から近畿地方まで主として日本海側と内陸部に産するが、
伊豆大島・伊豆半島・対馬でも記録されている。四国では徳島県に産する。
翌 1986 年にもかなりの発生を見たが、それ以後は殆どみかけない。
3. ホソバソトグロノメイガ *Analthes* sp.
Aug.17.1991 lex (Ama) [灯]
従来の記録は、東京・埼玉のみであったが、井上氏¹⁾からの私信によると最近大
阪府箕面市・兵庫県柏原から記録が報告されているそうである。
4. シンジュキノカワガ *Ehgma narcissus* (Cramer)
Oct.30.1991 lex (Ama) [灯]
文献上の最古の記録は 1909 年の熊本市での発生。北海道を始め、東日本各地で
散発的な採集記録があり、近畿、中国、四国地方の諸県でも同様である。最も頻度
の高いのは福岡県を中心とする九州北部。
幼虫の食樹はシンジュなど *Ailanthus* 属の植物 (ニガキ科) に限定されると思わ
れる。この属の植物は日本に自生品はなく、今日各地で野生化しているシンジュは
1875 年頃移入されたものとされているので、この蛾も二次的に日本に入ったものと
推定される。
5. ウスベニオオノメイガ *Tiresiphita prunipennis* Butler
Aug.21.1987 (Ama) [灯]
北海道、本州、対馬、屋久島、朝鮮に分布するまれな種。
6. オオトウスグロクチバ *Avitta fasciosa* Moore
Nov.19.1990 (Ama) [灯]
紀伊半島大塔山系、四国各地で発見され、関東地方では、1987 年東京都の奥多
摩、大垂水峠で採集されている。和名は初期産地の「大塔山」に因む。
7. シロモンコノメイガ *Nacoleia chrysorycta* Meyrick
Aug.23.1990 (Okawa) [Sw]
国内では非常に少ない種。近辺では奈良県吉野の記録がある。
8. ヒカゲヒメハマキ *Hikagehamakia alboguttata* Oku
May.31.1991 (Ama) [灯]
日本固有種。北海道、本州、対馬、屋久島から分布が確認されており、四国、九
州にもいることが予想されていた。
9. クシナシスジキリヨトウ *Spodoptera cilium* Guénee
Oct.25.1994 (Okawa) [灯]

3: 〒656-07 三原郡南淡町阿万上町 794

¹⁾井上 寛氏 大妻女子大学生物学研究室

今まで本土域で採集されたことはなく、主として沖縄本島以南に記録あり。杉繁郎氏に同定していただいた。



南淡町大川産クシナシスジキリヨトウ

(ふじひら あきら)

クロコノマチョウについて

谷川大海⁴

筆者は1994年7月28日より10月28日までクロコノマチョウの生態の一部を観察(飼育も含む)したので、ここに報告する。

1. 飼育について

①一回目の飼育

7月28日に捕らえた母蝶から(7月28日から31日の4日間で)108卵を得、107卵が孵化、58頭が羽化した(うち♂26頭、♀32頭)。型は夏型が22頭、秋型が30頭、中間型が6頭であった。中間型とは夏型から秋型への移行型と思われるもので夏型と秋型の両方の特徴を持っている。しかし越冬母蝶からの第一化の飼育がまだで、第一化夏型との比較が出来ていない。従って中間型と断定するのは今後の課題とする。羽化した成虫58頭はすべてマーキングして「沼の林床」に放蝶した。

②二回目の飼育

「沼の林床」で産卵を目撃して得た卵、及びすでに産みつけられていた卵からの飼育。「沼の林床」で袋がけ飼育をした。産卵日は卵や齢数から推測したものを含めて、8月22日から10月2日まで数日おきであった。全部で24頭羽化(すべて秋型)、そのうち9頭をマーキングして放蝶、他は標本にした。

2. 産卵行動について

産卵を目撃したのは三回(一回目は袋がけ産卵の時、二回目はマーキングして放蝶した母蝶の産卵、三回目は自然状態での産卵)。袋がけ産卵で一度だけ早朝(8時半)に産卵したことがあった。しかし、他はすべて夕刻(5時~6時)であった。また自然状態ですでに産みつけられていた卵も、卵の色などから推測して夕刻に産みつけられたようである。食草はジュズダマ、ケイヌビエ、ヨシの三種(去年はススキでも見られた)。いずれも林床内で育った若々しい、緑色の、柔らかい葉に産卵。まず葉表に止まり、すぐくると葉裏に逆さになり産卵。卵数は1卵から2~10卵の群卵が見られた。

4: 〒656 洲本市大野 1018-2

3. 孵化について

午前中に孵化する卵もあったが、多くは夕刻に孵化した。孵化したばかりの一齢幼虫をクモに食べられるのを目撃した。

4. 蛹化について

大多数は夕刻行われた。しかし二回目の飼育の時、後半（10月下旬）に蛹化したものは丸2日かかって完了したものもあった。

5. 羽化について

ほとんどが午前中。8月終わってから9月初めに羽化したものは5時台から8時台に羽化した。10月に羽化したものは6時台から10時台まで見られた。

6. 飼育および観察場所

飼育と観察の大部分は「沼の林床」で行った。他は飼育箱で行った。「沼の林床」（筆者の命名）は（洲本市池の内に）直径約100mの池の3分の1を占める沼状の場所。6月には冠水するが8月になると水はひく。樹木の主なものはハンノキ、ヤナギ類、下草はヨシ、ジュズダマ、セリ、ミソソバ、ケイヌビエ、ススキなどである。盛夏の林床は涼しくクロコノマチヨウをはじめ、コムラサキ、キマダラヒカゲ、クロヒカゲ、ウスイロコノマチヨウなどが見られる。

7. テリトリー飛翔および追尾飛翔について

「沼の林床」内で、日没直後から約30分間見られた。9月9日から10月3日までの間で、林床内の気温が20度以上の日に見られた。18度以下の日には見られなかった。放蝶した個体にはマーキングをしたが、観察に行くたびごとに見つけた自然状態の個体も捕らえてマーキングをしておいた。テリトリー飛翔、追尾飛翔の行われた場所は半径8m内で狭いものであった。枯木やヨシ、セイタカアワダチソウの葉上に止まり、1頭が飛び立つと数頭が絡み合うといった具合だった。日中のフワフワとした飛び方からは想像もできない素早い動きで、卍巴と思われるような追尾飛翔も目撃した。ほとんどが放蝶した個体だったが、何頭かは自然状態の個体もいた。夏型も秋型も見られた。夏型の個体の方が小さいからか、動きが早く、いつも追尾飛翔では勝っていた。これらの飛翔中に♀を目撃したことはなかった（♀の産卵を目撃したのは、いずれも、これらの飛翔の前であった）早朝（6時から8時）にも観察に行ったが、夕刻のような飛翔は見られなかった。数頭目撃できたが、林床内を歩いて行くとフワフワと飛んで逃げるといった具合であった。

8. 吸蜜行動について

9月26日には1頭、10月13日には2頭、それぞれ夕刻「沼の林床」内のヤナギの木でスズメバチと一緒に吸蜜しているところを目撃した。また10月27日と10月28日には8頭から11頭もの成虫が樹液を吸っていたようで、林床にはいると驚いて飛び立った（マーキング番号と頭数を確認できた）。

9. 配偶行動および交尾について

残念ながらまだ目撃していない。

10. 成虫の大きさについて

飼育成虫の翅の長さ（横幅）を比較してみた。羽化月別で比較する。10頭の平均値で、♂も♀も同じ傾向だった。10月羽化が一番長く、ついで（8-9）月羽化、11月羽化の順であった。

11. 食草について

このたびの観察でケイヌビエとヨシも食草にしていることが判明した。この二つの食草については、飼育および観察例が少ない。四種の食草のうちではジュズダマが一番よく利用されるようで、自然状態で発見した卵数もジュズダマが一番多かつ

た。また飼育でもジュズダマを使うと幼虫期間が一番短く、飼育もスムーズだった。

おわりに

これらの観察が終わりに近づいた11月初旬に、突然「沼の林床」が埋め立てられて姿を消してしまった。昨年、近くの農夫に、この池はもはや「ため池」としての機能を果たしていないので、いずれは埋め立てられると聞いていた。筆者にとっては大打撃である。クロノマチヨウの観察に最適の場所だったからである。

(たにがわ だいかい)

イッシキガガンボモドキの♂を採集

登日邦明⁵

筆者は先に本種 (*B. issiki*) の採集記録を発表したが (本誌 No.39), いずれも♀の個体であった。

その後本年 (95) 7月8日に、津名町大町畑 (Tsunami Omachi Hata) で灯火に飛来した♂の個体を採集し、上付器先端の形態から本種に間違いのないと思われるので記録しておきたい。標本は NSI に保管されている。

(とび くにあき)

編集後記

- ▽ 95年度の1号目をお届けします。春先に発行する予定でしたが、1月17日の兵庫県南部大地震で編集者の家屋や施設もかなりの被害を受け、1部解体修理を余儀なくされたこともあり、大幅に遅れてしまいました。
- ▽ 本年度の会費も2000円です。同封の振替用紙で早めにお願ひします。次号は年末に発行の予定です。 (TB)

PARNASSIUS No.42

1995年7月21日印刷 1995年7月27日発行

編集者 登日邦明 発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235

郵便振替 01170-3-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24

5. 〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235